

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

未来は、今である

新年あけましておめでとうございます。今年も教職員一同力を合わせ、前進する一年にしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

さて、いよいよ三学期が始まりました。三学期は、各学年のまとめの時期であり、新しい学年の0(ゼロ)学期とも言えます。次年度の準備もしっかり行って欲しいと思います。6年生は、19日(土)・20日(日)にセンター試験の本番を迎えます。自分の力を信じ、最後まで粘り強く頑張ってください。健闘を祈ります。また、卒業式(3/1)までの一日一日を悔いなく過ごし、本校での6年間の思い出を胸に巣立って欲しいと思います。

「一年の計は元旦にあり」と言われます。年の初めには誰もが「今年こそは」と、心に期した抱負があると思います。その気持ちも一日、二日と日が過ぎるにつれて薄れ、惰性に流されてしまうことがないようにその実現に向けて地道に努力を続けてください。

新年を迎えるという節目に、「**未来は、今である**」[The future is now.]という言葉を紹介します。これは、アメリカの文化人類学者、マーガレット・ミードさんの言葉です。

皆さんは、「今日は気分が乗らない。明日からやろう」と言い続け、先送りを経験したことはありませんか。タイムマシンを持たない私たちは、今この瞬間しか生きることができません。明日やろう、来月にしよう、来年でも間に合う、そんなふうにごろごろ過ごしているうちにどんどん未来が過ぎ去って過去になってしまいます。

つまり、**未来は今を積み重ねることで訪れる時間**です。今現在が未来に繋がっている。言いかえれば、今現在を変えることで未来も変わると言えます。未来を信じて、「**今やることに全力をつくす**」ことが大切ではないでしょうか。

最後に、経営の神様といわれた松下幸之助氏の言葉を紹介します。

「どんなに悔いても過去は変わらない。どれほど心配したところで未来もどうなるものではない。いま、現在に最善を尽くすことである」

◎干支のはなし

「干支(えと)」は中国・殷の時代に考案されたものです。正確に言うと「十干十二支(じっかんじゅうにし)」のことで、十干と十二支の組み合わせで、年や時刻、方角などを表していました。その「干」と「支」の一字ずつをとり「干支」と呼んでいますが、日本では「十二支」のことだけを「干支」と呼んでいる場合が多いです。

今年の干支は「亥(い)」です。動物にあてはめると「いのしし」です。漢字では「猪」ではなく、「亥」と書きます。なぜかという、本来、十二支は動物ではなく順番を表すものだったようですが、十二支が日本に伝わった頃、文字を読めない人々にも覚えやすいようにと12の動物を当てはめてわかりやすくしたそうです。

昔の中国では、この世界は、木・火・土・金・水という5種類のものからできていると考えました。そして、それぞれに兄と弟に分け、「木の兄」を「きのえ、甲」、「木の弟」を「きのと、乙」、「火の兄」を「ひのえ、丙」……としました。皆さんも甲乙丙丁ぐらいは知っているでしょう。

今年は正確には「己亥(つちのと・い)」になります。「己」は明るい中天の太陽、「亥」は暗闇の新月を表し、その組み合わせの年というわけではないですが、1年間で2回も日食が観測できる非常に貴重な年だそうです。

	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸		
十干	きのえ こう	きのと おつ	ひのえ へい	ひのと てい	つちのえ ぼ	つちのと き	かのえ こう	かのと しん	みずのえ じん	みずのと き		
十二支	子 ね し	丑 うし ちゅう	寅 とら いん	卯 う ぼう	辰 たつ しん	巳 み し	午 うま ご	未 ひつじ び	申 さる しん	酉 とり ゆう	戌 いぬ じゅう	亥 い がい

※干支では中段の訓読みで使われることが多いです。(下段の音読み)

60年で同じ「干支」が巡ってくるので60歳で還暦というのです。また、社会の歴史で習った「壬申の乱」や「戊辰戦争」などはこの干支で表した言い方です。甲子園球場は「甲子」の年につくられました。